



工学研究科長就任にあたって

工学研究科長・工学部長
田中敏宏

平成 27 年 8 月 26 日から、前工学研究科長の掛下先生の後任として、工学研究科長・工学部長に就任いたしました。掛下研究科長のもとでは、3 年半にわたり、副研究科長・教育学務国際室長として、教育関係・国際交流関係の任務を担当させていただきました。大学の使命はやはり人材育成であり、特に、10 年、20 年先にその潜在力が開花する可能性を秘めた若者への教育研究活動を通じた人材育成が工学研究科の活動の核であると考えております。掛下前研究科長が取り組まれたご実績は多岐にわたっておりますが、例えば、国際交流関係の取り組みでは、工学研究科の中に、旧留学生相談室（その後留学生相談部）を改組して、国際交流推進センターを設置し、さらに専任の教授等教員を配置して今後の長期的な国際交流にも対応できる体制を構築されました。さらに同センターを中心として海外大学とのダブルディグリー協定も締結し、海外の大学に学生・教員が滞在して教育研究を行い、修士あるいは博士の学位を大阪大学と海外の大学で同時に 2 つ取得する制度も始まりしました。この制度は、既に 20 年、30 年前に大阪大学工学研究科で学んだ留学生が海外の大学において学長・学部長・教授として、また産業界において活躍されている現状が基盤・背景となって成り立った新たな取り組みです。これは、長期的な人材育成には、留学生も含めた同窓生の存在とその活躍が重要であり、同窓会組織の充実とその支援が不可欠であることを示している一例です。この例のみならず、現在の大阪大学工学研究科の活動の多くが、卒業生の方々のご活躍とご支援に依るところが極めて大きいと思っております。2 年後には、工学研究科の敷地のほぼ中央部に現在の福利厚生施設を改築して、新たな高層棟を有する福利厚生棟を建設し、大阪大学工業会の事務局も入居していただき、より身近なところで在学生・卒業生をご支援いただくこととなります。将来を見据えた人材育成を工学研究科のミッションの核として位置付けております上で、同窓会との連携は大変重要であり、卒業生の皆様からのご支援を引き続き何卒宜しくお願い申し上げます。



工学研究科長退任にあたり

マテリアル生産科学専攻
掛下知行

平成 23 年 8 月 26 日より工学部長・工学研究科長を拝命し、2 年間の任期の後、平成 25 年の 8 月 26 日より 2 期目の工学部長・工学研究科長の責務を担い、27 年の 8 月 25 日でその任を無事終了いたしました。これも一重に教職員の皆様方、諸先輩・後輩の方々ならびに関連いたします企業の方々等の温かいご支援とご協力の賜物であると強く感じております。この場を借りまして、改めて厚く御礼申し上げます。また、日頃から、大阪大学工業会の皆様方からのご厚情ご支援を頂戴いたしますことに対しまして深く感謝申し上げます。

私の工学部長・研究科長時代は、国内外において経済の回復の兆しが見え始めたとは言え、様々な自然災害が日本を襲い、また 4 年前の未曾有の大災害以来のエネルギー問題や原発の後処理計画に対しては依然として復興への明確な糸口がつかめない場面も多い状況でありました。このエネルギー問題の他にも、昨今では、食料・水問題、資源、環境問題、感染症の地球規模での拡大の危機など、人類の存続自体を脅かす諸問題が顕在化して来ています。これに加えて我が国では少子高齢化が深刻な問題となり、これによる労働人口の著しい減少により社会構造の変革は避けられないところに来ております。この状況に鑑み、工学部・工学研究科がなすべきことは、今述べました人類に課せられた自然科学、人文社会科学全般にわたる命題に果敢にチャレンジする気概と能力並びに素養を持った人材の育成を行うことであると信じ、教育・研究環境の整備と人材育成に邁進いたしました。

具体的に、私が関わりました問題（未解決も含む）を列挙いたしますと、全体に関わる問題として、工学ミッションの再定義、丸付きポストの問題、年俸制の導入、新学事歴の導入、卓越大学院の構築、特定研究大学の獲得、国立大学 3 分類、概算要求の獲得（教育プログラム 略称カレン）等があげられます。一方、主に工学部・工学研究科に関わる問題として、教育学務国際室、戦略支援部、情報広報室ならびに国際交流推進センターの構築、後期日程の停止、学位記授与式を工学研究科単独で行う事、新テニユアトラック制度の導入、科学技術政策研究所（文科省）との MOU、原子分子イオン制御理工学センターをアトミックデザイン研究センターと改組、共同研究講座ならびに協働

研究所の数の増加、改修改築整備、組織再編等があげられます。この他にも数多くありますが、すべて解決したわけではありません。これらにつきましては、新工学部長・研究科長 田中 敏宏先生に引き継ぎをさせていただきました。また、工学部・工学研究科では、現在の福利厚生棟の北側に新たな6階建ての福利厚生研究棟を平成29年4月1日の完成を目指して建築することを決定し、これまでに工学部・工学研究科の卒業生や、関係企業の皆様方にご支援を賜りました。工業会からは、本事業に対し多大なるご寄付をいただくこととなり、この場をお借りして衷心より御礼申し上げます。なお、工業会事務局がこの建物の3階に移転することになりました。

これから更なる激動の時代を迎え、大学は「知の創造」と「人材育成」をより強く求められております。そのためにも、新工学部長・研究科長のもと、本工学部・工学研究科が、地に足のついた議論を尽くし、不断の努力を続けることにより、社会に貢献し発展を続けることを祈念いたします。

最後ではありますが、この4年間の長きにわたり様々な場面でお世話を頂きましたこと本当にありがとうございました。